

WEEKLY SIGNAL

平成30年11月9日(金) 1449号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/12(月)	11/13(火)	11/14(水)	11/15(木)	11/16(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 900	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 10,200	△ 1,000	△ 6,000	+ 8,000	△ 20,000
資金需給	△ 9,300	ト ン	△ 6,000	+ 7,000	△ 21,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3・6M)		源泉税揚げ 国債発行(30年)	国債償還(2年) 交付税特会借入・償還	国債発行(5年)
オペ期日	CP等買入 共通担保(全) △ 200 △ 2,100				
オペスタート	国債買入 共通担保(全) ETF買入 + 10,000 + 2,200 + 300				
(日本)	企業物価指数(10月)	日銀営業毎旬報告 (11月10日現在)	GDP(7-9月、速報)		
(海外)	米 祝日 米 サンフランシスコ連銀総裁講演	米 ミネアポリス連銀総裁講演 米 財政収支(10月)	米 バウエルFRB議長講演 米 クオールズFRB副議長 下院議会証言 米 CPI(10月) ユーロ圏 GDP(3Q、改定値)	米 ミネアポリス連銀総裁講演 米 クオールズFRB副議長 上院議会証言 米 新規失業保険申請件数 (11月10日終了週) 米 小売売上高(10月) 米 輸入物価指数(10月)	米 シカゴ連銀総裁講演 米 鉱工業生産(10月)

<インターバンク市場>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債買入オペ等要因により前週末比9,600億円増加の391兆7,700億円から始まった。その後は横ばい圏で推移し、391兆9,700億円で越えた。
無担保コールON物は先週末の2日に税揚げがあったものの、交付税交付金の払い要因もあったことから、調達サイドの動向に大きな変化はなく、週を通して軟調な地合となった。同加重平均金利は△0.072%~△0.070%と狭いレンジで推移した。ターム物は今積み期内エンドの1W物を中心に△0.045%~△0.04%のレンジで取引された。
7日~8日に開催されたFOMCで、大方の予想通り政策金利を年2.00~2.25%のレンジを維持することを決めた。声明では、「経済活動は力強いペースで拡大している。」と指摘した。

<オープン市場>

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約3,300億円で、週間償還額(約4,500億円)から減少した。発行市場は、大型発行案件も少なかった事に加えその他金融の大量償還もあり、やや閑散なマーケットとなった。週末の発行市場残高は、入札以外の発行もあって18兆7,000億円弱と先週末比若干増加した(11/2残高:18兆6,192億円)。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナス~0%近辺のレンジであった。6日にオファーされたCP等買入オペは、プライマリーでの発行ペースが鈍化していることからディーラーの売却意欲は減退し、応札額は減少した。按分レートは、△0.002%と前回比横ばい。
来週の償還総額は約8,200億円で、5・10日発行案件があるものの、事業法人の資金調達は本格化しておらずほぼ横ばい推移であろう。発行レートは、引き続きマイナス~0%近辺での出合いが中心と思われる。13日に、CP等買入オペが2,000億円オファーされる予定。

<TDB>

8日入札の6M794回債は最高落札レート△0.1833%(前回債△0.1823%)、平均落札レート△0.1894%(同△0.2003%)と前回とほぼ同水準の結果。9日入札の3M795回債は償還日の来年2月18日が米国市場の休日にあたる為、前回債に比べ海外勢の需要が乏しく、最高落札レート△0.2400%(前回債△0.2836%)、平均落札レート△0.2575%(同△0.2980%)と前回から利回りが上昇した。週末のセカンダリー市場は、新発3Mが△0.245%~△0.24%と平均落札レートより弱めの出合、一方、新発6Mは堅調な地合で△0.205%の賣いが見られた。
来週は16日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.13%近辺から始まり、週半にかけて△0.14%~△0.15%に低下、短国6M、3Mの発行日となる12日受渡しは、前場△0.14%~△0.15%の出合い、後場にレートが低下する展開となり、△0.16%~△0.17%近辺で多く取引された。SC取引では、5年137回債のbidが多く、週前半は概ね△0.10%台後半~△0.20%台前半、国債買入オペがオファーされた12日受渡しは、△0.30%近辺から出合いが付き始めたが後場にレート低下、△0.60%台でも一部取引された。他2年392・393・394回債、5年135・136回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352回債、20年164・165・166回債、30年59・60回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。